

後期アクションプラン成果と評価

施策の柱Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進 ～子どものスポーツ～

■目標

県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、性別や障害の有無を問わず、安全にスポーツを「する」「みる」「支える」活動を推進していきます。

■目指す姿

幼児期から基本的な生活習慣(はやね, はやおき, あさごはん)を身に付けているとともに、日常的に運動遊びに親しみ、体を動かすことが好きになっています。小学校に入学してからも進んで体を動かし、放課後や休日には友達や家族と公園で遊んだり、地域のスポーツ活動に積極的に参加しています。中学校や高等学校では、運動部に所属したり、地域でのスポーツ活動に参加したりするなど、自ら運動に取り組むことの大切さを理解し、スポーツを楽しんでいます。

基本方向	1	子どもの健康な身体づくりと体力・運動能力向上の推進
	2	子どもの遊ぶ(身体活動)機会の創出
	3	子どもがスポーツを「みる」「支える」機会の創出
	4	学校体育の充実
	5	運動部活動の充実

目標指標等	■達成度		■達成率(%)			
	A:「目標値を達成している」(達成率100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」 C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」		フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値) 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)			
		現状値 (R1)	全国値 (R1)	目標値 (R4:3年後)	達成度	達成率
1	体力合計点	小5男	53.3 点	53.5 点	全国平均を上回る	B 99.6%
		小5女	55.3 点	55.6 点	全国平均を上回る	B 99.5%
		中2男	41.8 点	41.7 点	全国平均を上回る	A 100.2%
		中2女	49.2 点	50.2 点	全国平均を上回る	B 98.0%
2	運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合(好き・やや好き)	小5男	93.9 %	93.3 %	98.0 %	B 95.8%
		小5女	87.2 %	87.6 %	90.0 %	B 96.9%
		中2男	88.8 %	89.2 %	94.0 %	B 95.5%
		中2女	79.5 %	79.1 %	82.0 %	B 97.0%
3	運動部活動加入率(中学校)	男子	83.7 %	69.9 %	88.0 %	B 95.1%
		女子	63.6 %	52.5 %	68.0 %	B 93.5%
4	運動部活動加入率(高等学校)	男子	62.4 %	57.0 %	65.0 %	B 96.0%
		女子	36.8 %	28.2 %	40.0 %	B 92.0%
5	部活動指導員数	9 人	— 人	35 人	C 25.7%	

■ 施策評価	やや遅れている
--------	---------

評価の理由

目標指標等	<ul style="list-style-type: none"> ・体力合計点について、中学2年生の男子は全国平均値をやや上回っているが、その他の年代では全国平均値をやや下回っている。 ・運動やスポーツが好きな児童生徒の割合については、小学5年生男子と中学2年生女子が全国平均を上回っているが、小学5年生女子と中学2年生男子は全国平均を下回っている。 ・運動部活動加入率については、ほぼ横ばいの状況であり、特に高等学校女子の達成率が低い。 ・昨年度から項目の設定替えをした部活動指導員数については、昨年度より2名増加したが、定着が図られていない。 ◆上記の目標指標の状況等及び以下の各取組の成果から、評価は「やや遅れている」と判断する。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ 評価の視点: 目標指標等, 県民意識, 社会経済情勢, 事業の実績及び成果等から見て, 施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で, 総合的に施策の成果を評価する。

基本方向1 子どもの健康な身体づくりと体力・運動能力向上の推進

【取組】

- ①基本的な生活習慣の確立についての意識啓蒙
- ②栄養のバランスに配慮した食生活の推進
- ③幼児期からの運動遊びプログラムの充実
- ④スポーツ障害予防の推進
- ⑤特別支援教育における体力・運動能力の向上

事業の成果等
<p>【取組①】</p> <p>ルルブルロックンロール♪教室を40回実施し、乳幼時期から運動に親しめる環境づくりを行った。また、教室実施後には「ルルブルチャレンジ手帳」を配布し、継続的な取り組みを促した。</p> <p>ルルブルスポーツ教室を開催し、小学生が日常生活の中で主体的に運動やスポーツに親しむことの大切さの普及啓発と、意識的に運動する習慣の定着促進を図った。</p> <p>ルルブルエコチャレンジポスター等の配布により、県内全域でルルブルに取り組めるようにした。</p> <p>仙台うみの杜水族館と連携し、ルルブルアンバサダーへの就任を行い、幅広い世代へのルルブルの周知ができた。(教育企画室)</p>
<p>【取組①②③】</p> <p>・メタボ予防対策事業として、地域特性に応じた事業(企画・評価会議、子どものからだづくり連携事業)を、各保健所圏域で実施した。(健康推進課)</p>
<p>【取組②】</p> <p>「食に関する指導の全体計画」が各学校において作成されているかを確認し、各学校における食に関する指導体制の整備と食育の推進を促した。また、学校給食施設衛生管理巡回訪問においても総合的に食に関する指導を行った。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組③】</p> <p>子供の体力・運動能力向上を目指し、実態を調査、分析し、学校へフィードバックする取組や、小学校、中学校教員を対象とした研修会を継続開催した。本県の児童生徒の体力合計得点は低下したが、全国順位は上がっている。</p> <p>県内全ての児童がウェブ上で、長なわ跳びや短なわ跳びにチャレンジできるWebなわ跳び広場を開催したことにより、児童の運動時間の創出を図ることができた。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組③】</p> <p>幼児期からの運動習慣定着を推進する「アクティブ・チャイルド・プログラム普及促進研修会」を大和町を会場に開催し、29名が参加した。</p> <p>子ども達を対象にスポーツが親しめるようなスポーツ教室や講習会・スポーツ大会を開催した。(県スポーツ協会)</p>

基本方向2 子どもの遊ぶ(身体活動)機会の創出

【取組】

- ①各種大会、スポーツ教室の充実
- ②プロスポーツや企業スポーツとの連携によるスポーツ活動機会の創出
- ③スポーツ少年団活動の推進
- ④夏休み等のラジオ体操活動の拡大
- ⑤「放課後児童クラブ」及び「放課後子ども教室」等での運動遊びやスポーツ活動の推進
- ⑥特別支援教育における子どもの遊ぶ(身体活動)機会の創出

事業の成果等
<p>【取組①②】</p> <p>県内の親子を対象に「ルルブル親子スポーツフェスタ」を開催し、簡単かつ親子で取り組める親子体操や、プロスポーツチームによるスポーツ教室などで、運動やスポーツに親しむことの大切さを啓発するとともに、意識的に運動する習慣の定着を図り、155人の参加者が集まった。</p> <p>スポーツの楽しさや大切さを普及啓発するとともに、継続的な運動習慣の定着を促進するため、ルルブルスポーツ教室としてベガルト仙台サッカー教室と楽天イーグルス野球教室を開催し、145人の参加者が集まった。(教育企画室)</p>
<p>【取組①】</p> <p>県民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起する「宮城ヘルシーふるさと祭」を各教育事務所・地域事務所ごとに開催し、毎年予選会も含め、延べ2万人を超える県民が参加するイベントとして定着した。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組①】</p> <p>子ども達を対象にスポーツが親しめるようなスポーツ教室や講習会・スポーツ大会を開催した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組②】</p> <p>在県プロスポーツチーム選手によるサッカー教室の開催、全日本実業団対抗女子駅伝大会開催に伴う実業団の選手が直接子どもたちに陸上競技を教える「ふれあい陸上教室」など、子どもの身体活動機会イベントが実施された。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>

事業の成果等
<p>【取組②】 気軽に楽しく運動できる機会の提供を目的として施設の無料開放を行った。 プロスポーツと連携し、スポーツ体験などを通じ、子どものスポーツ機会を創出した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組③】 各地域で活動するスポーツ少年団の登録手続きや指導者・リーダーの養成、交流大会実施等の支援を行い、子ども達がスポーツに取組む入口として、地域で定着している。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組⑤】 気軽に楽しく運動できる機会の提供を目的として施設の無料開放を行った。また無料開放に合わせ障害者スポーツの体験コーナーや照会ブースを設置し、障がいがある人もない人も、一緒に気軽にスポーツを楽しむことで障害者スポーツへの共感と理解を深めていただくとともに東京パラリンピックに向けた機運醸成を図った。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組⑤】 令和元年度は、22市町村78の放課後子供教室が開設され、延べ83,203人の子供たちが学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流など体験的な活動に参加した。特に震災で甚大な被害を受けた市町村においては、地域の中で体を動かす場所と機会を提供する所としての意義は大きく、子供の遊ぶ機会の創出に大きな役割を果たした。(生涯学習課)</p>
<p>【取組⑥】 「障がい児運動・あそびの広場」を、8月から3月まで計9回、仙台市内、仙台市近郊、県北部地域での開催を計画、実施。延べ630名が参加した。(県障害者スポーツ協会)</p>

基本方向3 子どもがスポーツを「みる」「支える」機会の創出

【取組】

- ①スポーツ観戦機会の充実
- ②スポーツの情報ネットワークの整備と充実
- ③スポーツボランティア活動の普及

事業の成果等
<p>【取組①】 県が参画する各プロスポーツチーム協議会を通じ、試合チケットの優待や招待などを実施した。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組①】 6年ぶりにサッカー日本代表戦が開催され多くの子供に国際試合を観戦する機会を提供することができた。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組①③】 サッカー競技開催県として組織委員会とともに輸送計画や会場調整など開催に向けた準備を進めた。また、ボランティアの募集や研修、1年前イベントの実施など大会参画に繋がる取組を実施した。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>

基本方向4 学校体育の充実

【取組】

- ①震災後の子どもの運動量減少に配慮した学校体育の推進
- ②指導者の指導力向上
- ③「みやぎっ子！元気アップエクササイズ」の活用推進
- ④地域の特色を活かしたスポーツ活動の推進
- ⑤総合型地域スポーツクラブ等との連携
- ⑥特別支援学校における学校体育の推進

事業の成果等
【取組①】 震災後、広い場所を確保せず運動ができるWebなわ跳び大会を開催し、運動機会創出と体力・運動能力調査結果に成果が反映された。(スポーツ健康課)
【取組②】 体育・保健体育指導者の資質向上と学校体育の充実を図るため、スポーツ庁及び独立行政法人教職員支援機構等の主催する研修会に教職員を派遣するとともに、伝達講習会を開催し、県内教職員の資質向上につなげた。(スポーツ健康課)
【取組③】 「体力・運動能力向上出前研修会」の指導教員により、研修実施校において元気アップエクササイズの普及を行った。(スポーツ健康課)
【取組⑥】 特別支援学校運動部活動の振興のため全国聾学校陸上競技・卓球大会に参加する選手・監督に対し、旅費補助を行った(26名)。(スポーツ健康課)

基本方向5 運動部活動の充実

【取組】

- ①みやぎの部活動のあり方の検討
- ②中体連・高体連での学校間及び校種間連携の推進
- ③運動部活動外部指導者活用の全体的展開の推進
- ④部活動指導者の育成と研修の充実
- ⑤女子の運動部活動への参加の推進
- ⑥スポーツ障害予防の推進(再掲: I 子ども-1)
- ⑦特別支援学校における部活動の推進

事業の成果等
【取組①】 12月に部活動についてのWGを行い、翌年2月に部活動在り方検討会議を実施した。今後の部活動運営について、それぞれの考えや意見を出し合い、課題等について共有することができた。(スポーツ健康課)
【取組②】 各校の部活動や県中体連主催の強化事業を行うことで、学校間の交流を図っている。また顧問の部活動指導においては、強化事業を通して指導者の交流が促進され、指導方法の改善・向上に役立っている。また、競技によっては、高校と合同練習を行ったり、強化事業で高校生に協力をもらうなど連携を図っている。(県中体連)
【取組②】 高等学校運動部活動振興のため、全国高等学校総合体育大会、定時制・通信制体育大会に参加する選手・監督に対し、旅費補助を行った(876名)。 中学校・高等学校体育の振興を図るため、体育大会開催に要する経費の一部を負担した。(スポーツ健康課)
【取組③】 令和元年度は171人の運動部活動外部指導者を派遣し、運動部活動の充実を図った。(スポーツ健康課)
【取組④】 スポーツ指導者研修会を開催し、95人が参加した。「未来に誇れるBUKATSU文化を創ろう」という題材で研究協議が行われた。(スポーツ健康課)
【取組④】 選手や顧問には各専門部の競技力向上対策事業やリーダー養成講座を通して、また、教職員や指導者には県高等学校運動部指導者研究協議会兼研究大会や県スポーツ指導者研修会を通して、活動機会を創出し、当連盟への理解と参加を積極的に行えた。部活動での体罰根絶や効率的な指導法の在り方は、徐々にではあるが育成と研修が成果を上げている。(県高体連)
【取組④】 強化事業を実施していることで部活動顧問同士の連携や交流にも役立っており、指導力向上にも効果がある。また、昨年度から部活動指導員への研修会を実施し、大会運営の仕方や顧問教員との連携の重要性、生徒との信頼関係の構築や生徒指導事例などについて講習を行った。(県中体連)

施策を推進する上での課題と対応方針	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「Webなわ跳び大会」「元気アップエクササイズ」とともに取組状況に二極化が見られる。 ・地域との連携が今後ますます大切になってくるため、各地域で会議を実施し、各地域の実態と課題について情報共有していく。参加者が少ないため、受講者の確保に工夫が必要である。 ・令和2年度で運動部活動外部指導者派遣事業が終了となり、新たに働き方改革を目的とした部活動指導員配置事業を実施していくため、今後の事業についての説明を丁寧に行っていく。 ・設定した時間が遅く、閉館を過ぎてしまった。また、平日開催だったためか参加者が少なかった。(スポーツ健康課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組に加え、大学や民間企業と連携し、内容の拡充を図るなど、課題解決に向けた創意工夫を図る。 ・毎年、宮城県の6地区を順に巡り、会議やWGを実施していく。 ・校長会や様々な会議や研修会等で部活動指導員配置事業についての目的や活用方法を伝えていく。 ・受講者の負担軽減を図るため、スポーツ協会と連携し、内容等を設定していく。(スポーツ健康課)
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣定着の実践がまだ伴っておらず、継続して取り組む必要がある。 ・1日限りの単発イベントのため、継続して啓発を行うことが難しい。また、場所や天候、実施内容等により参加者が左右されてしまうことが課題である。(教育企画室) 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長段階に応じて、運動に親しめるような取組を推進していく。また、広くルルブルの実践を促せるルルブルエコチャレンジポスターの配布は今後も継続していく。 ・ルルブルロックンロール♪教室やルルブルエコチャレンジ事業を併せて行うことで、継続してルルブルの啓発が行えるようにする。また、開催規模や内容の工夫を図る。(教育企画室)
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、学校等と連携したいが、年間を通して既に多くの行事が組み込まれているため、既存事業との調整等が難しい。(健康推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁内関係各課との調整や、(保健所単位では)既存会議等の活用により、今後も連携して実施していきたい。(健康推進課)
<ul style="list-style-type: none"> ・シーズンオフや大会開催日など各種スポーツ教室が開催される期間が限定される。 ・大人を含めたチケットの着券率が伸び悩むこともあり、必ずしも協議会が想定した客数に達しない場合もある。(取組①) ・ボランティア活動等を含めた大会参画への機会の創出、スポーツ、大会の素晴らしさをさらに周知する必要がある。(オリンピック・パラリンピック大会推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにより多くの機会が与えられるよう、各プロチームと検討し行司の質・量の向上を図る。 ・周知方法や内容など、広く子どもたちがスポーツ観戦に訪れられるような仕組み作りを検討する。 ・大会準備のほか、イベント開催やボランティアの活動などオール宮城で取組を進めていく。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)
<ul style="list-style-type: none"> ・研修会への参加者が少ない。 ・参加者数が少ない事業がある。 ・来場者数の確保。 ・少子化や子どもの運動離れ等により、少年団加入者数が年々減少している。 ・活動機会が年1回と少ない。 ・国際試合、国際大会を誘致するには長期的な展望での利用調整(日程確保)と競技団体へ渉外関係へのサポート(近隣対策・来場アクセス等への協力)が不可欠。(県スポーツ協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を2回開催し、受講者が参加しやすい環境整備を図る。 ・来場者数・活動機会が増えるよう各競技団体等とも連携して創意工夫を図る。 ・アンケート調査を通じてより良い少年団活動の在り方について検討を行い、子ども達を取巻く運動環境の改善を図る。 ・競技団体と連携し子供に夢を与えるような大規模大会の誘致に努める。 ・引き続き障害者スポーツへの共感と理解を深める事業を併せて実施する。 ・無料開放や通年の施設ボランティアに親子でボランティアを体験できる機会を創出したい。(県スポーツ協会)
<ul style="list-style-type: none"> ・県高等学校運動部指導者研究協議会兼研究大会と県スポーツ指導者研修会においては、研修内容の面からも重複することが多い。(県高体連) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会そのものの在り方や内容、運営方法を検討する必要がある。また、講演や実技の講師選定には、各団体や関係機関から協力を頂きながら、適した人材を選ぶ。(県高体連)
<ul style="list-style-type: none"> ・強化事業は、全ての学校、全ての顧問が関わっているわけではないので、その効果は限定的である。また、部活動指導に対しては、顧問による意欲の差も大きい。(県中体連) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県中体連だけで事業を行うのではなく、生徒や顧問が参加しやすいように、より小さい単位(郡市中体連や市町村)で部活動の充実を図るための合同練習や指導者講習等を企画する。(県中体連)
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子供教室を開業している学校数は低めで(R元年度県内小学校カバー率=32%)、もっと多くの子供たちに同様の活動に取り組ませたい。また、放課後子供教室スタッフの確保が課題である。(生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子供教室のない小学校で開催されるよう、市町村へ働きかけていく。また、研修会を開催しスタッフの意欲を高め資質向上を図る。(生涯学習課)
<ul style="list-style-type: none"> ・仙台内では定着しており、多くの児童の参加があるものの、仙台市を離れると継続的に開催している地区では、そこそこ参加いただけるが、その他の地域での参加数は少ない。(県障害者スポーツ協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市外での継続した活動を行うため、また、地域総合型スポーツクラブとの共催により、各地域での独自に取り組める状況を作り、活動の定着を目指す。(県障害者スポーツ協会)

施策の柱Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進 ～働く世代のスポーツ～

■目標

県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、性別や障害の有無を問わず、安全にスポーツを「する」「みる」「支える」活動を推進していきます。

■目指す姿

家事や通勤などで、日常的に身体活動を無理なく増やしつつ、だれもが運動やスポーツを行う習慣があり、健康でいきいきと生活しています。身近な場所でスポーツ教室やスポーツイベントがあり、子どもや地域住民とスポーツを楽しみ、家族や地域の絆もできています。また、休日には家族や友人とスポーツ観戦を楽しんだりスポーツボランティア活動へ参加したりなど、「する」だけでなく、「みる」「支える」ことにも主体的に取り組んでいます。

基本方向

- 1 日常生活における身体活動の奨励
- 2 スポーツ活動機会の創出と交流の推進

目標指標等

- 達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」
C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」
- 達成率(%) フロー型の指標: 実績値/目標値 スtock型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値)
目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)

目標指標等	現状値	全国値	目標値 (R4:3年後)	達成度	
				達成率	
1 成人の週1回のスポーツ実施率	H27 35.0 %	R1 53.6 %	65.0 %	C	53.8%
2 成人の週3回のスポーツ実施率	H27 13.0 %	R1 27.0 %	30.0 %	C	43.3%
3 成人の年1回以上のスポーツ実施率	H27 62.2 %	R1 - %	90.0 %	C	69.1%
4 日常生活における歩数の増加	男性 H28 7,000 歩	H28 7,769 歩	9000 歩	C	77.8%
5 (20～64歳)	女性 H28 6,398 歩	H28 6,770 歩	8500 歩	C	75.3%

■ 施策評価

遅れている

評価の理由

目標指標等

- ・平成27年度に実施した「スポーツに関するアンケート調査」では、スポーツの実施率が目標値を大幅に下回る結果となったほか、平成22年度に実施したアンケート調査をも下回る結果となった。なお、20～59歳の週1回のスポーツ実施率は28.5%、週3回のスポーツ実施率は6.6%と特に低い数字となっている。
 - ・平成28年度に健康推進課で行った日常生活における歩数調査では、平成22年度調査を大きく下回る結果となっている。
- ◆上記の目標指標の状況等及び以下の各取組の成果から、評価は「遅れている」と判断する。

※ 評価の視点: 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

基本方向1 日常生活における身体活動の奨励

【取組】

- ①日常生活における運動習慣定着化の推進
- ②身体活動や食事など健康づくりに関する情報の充実
- ③健康教室等の広報活動の支援

事業の成果等
<p>【取組①②③】</p> <p>・「歩こう！あと15分」を目指すため、モバイルフォンを活用し、個人の日々の必要歩行数の見える化や、モバイル内イベントの開催、歩行数によるポイント獲得などのインセンティブにより気軽に楽しい健康づくりの実践を促すツールとして、みやぎウォーキングアプリの構築・運用を開始した。(健康推進課)</p>
<p>【取組①】</p> <p>気軽に楽しく運動できる機会の提供を目的として施設の無料開放を行った。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組②③】</p> <p>・メタボ予防対策事業として、地域特性に応じた事業(企画・評価会議、働く人の連携事業)を、各保健所圏域で実施した。(健康推進課)</p>
<p>【取組③】</p> <p>各種スポーツ教室・クリニック等の講習会を開催する他、身体測定会や健康づくり教室等を実施した。(県スポーツ協会)</p>

基本方向2 スポーツ活動機会の創出と交流の推進

【取組】

- ①地域のスポーツイベントの開催と支援
- ②各種健康づくり教室、レクリエーションやスポーツ教室開催の支援
- ③各種大会、スポーツ教室の充実
- ④職場への支援
- ⑤スポーツ情報ネットワークの整備と充実(再掲: I 子ども-3)
- ⑥スポーツ観戦機会の充実(再掲: I 子ども-3)
- ⑦障害者スポーツ団体活動の支援(再掲: I 子ども-1)

事業の成果等
<p>【取組①】</p> <p>気軽に楽しく運動できる機会の提供を目的として施設の無料開放を行った。 地域スポーツ活動の普及推進事業を実施する16市町の体育・スポーツ協会に対し助成金を補助し、生涯スポーツ活動を推進した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組①③】</p> <p>サッカー競技開催県として組織委員会とともに輸送計画や会場調整など開催に向けた準備を進めた。また、ボランティアの募集や研修、1年前イベントの実施など大会参画に繋がる取組を実施した。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組①②③⑤】</p> <p>いつでも、どこでも、だれでも、生涯を通じてスポーツに親しめる環境を整備するため、気軽に行えるニュースポーツの普及や体育施設間のネットワークの構築、スポーツボランティアの支援等を行った。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組②】</p> <p>日本スポーツ協会公認指導者を新たに4名養成するとともに、資質向上を目的とした研修会を実施し、212名の参加があった。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組②】</p> <p>第73回全国レクリエーション大会in宮城2019を実施し、延べ14,000人の参加者が、ニュースポーツの各種大会を実施した。それ以外では、主催事業1件、共催事業1件、協力事業5件を通じて、幅広い世代に対してニュースポーツ体験会を実施した。(県レクリエーション協会)</p>
<p>【取組③】</p> <p>総合型地域スポーツクラブに対して専門的な知識・技能を有した講師を派遣することで、実技体験を通してスポーツの良さを実感してもらう支援を行い、合計 494名の参加があった。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組③】</p> <p>生涯スポーツの一環として誰でも手軽にできるスポーツとして年1回セキスイハイムスーパーアリーナにおいて家庭バレーボールの県大会を開催している。(スポーツ推進委員協議会)</p>
<p>【取組⑥】</p> <p>県が参画する各プロスポーツチーム協議会を通じ、試合チケットの優待や招待などを実施した。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組⑦】</p> <p>障害者スポーツ教室を開催したほか、障害者スポーツ団体と協力した大会の開催や新規事業により、地域の総合型スポーツクラブと連携して障害者スポーツ教室等を開催するなど、障害者がスポーツに親しむ機会を創出した。(障害福祉課)</p>

施策を推進する上での課題と対応方針	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・アプリダウンロード数の増加に向けた周知広報等。 ・事業所等と連携したいが、事業所側の担当者及び代表取締役等トップの意識に左右されるところが大きい。(健康推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発事業の実施、及び県関係機関との連携方法についても検討していきたい。 ・行政機関等との連携や、各種団体を取りまとめる県庁関係各課との連携についても検討していきたい。(健康推進課)
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等を含めた大会参画への機会の創出、スポーツ、大会の素晴らしさをさらに周知する必要がある。 ・大人を含めたチケットの着券率が伸び悩むこともあり、必ずしも協議会が想定した客数に達しない場合もある。(オリンピック・パラリンピック大会推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会準備のほか、イベント開催やボランティアの活動などオール宮城で取組を進めていく。 ・周知方法や内容など、広く子どもたちがスポーツ観戦に訪れられるような仕組み作りを検討する。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)
<ul style="list-style-type: none"> ・来場者数の確保。 ・参加者数が少ない事業がある。 ・働く世代のイベント参加が増加しない。 ・公認指導者資格保有者の活用が進まない現状がある。 ・講師派遣事業を活用する総合型地域スポーツクラブが固定化しつつある。(県スポーツ協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者数が増えるよう創意工夫を図る。 ・参加者数が増えるよう創意工夫を図ると伴に事業の見直しを行う。 ・働く世代が参加しやすいよう、イベント開催時間や内容に工夫を図るよう市町村に働きかける。 ・日本スポーツ協会指導者マッチング事業を紹介し、機会をとりえて資料を配布する。 ・既存クラブのみならず、設立を検討している民間団体なども活用できるよう、工夫改善を図る。(県スポーツ協会)
<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業を通じて、仙台市を除いた地域では、障害者スポーツに関する経験不足や指導者の知識不足などの課題がわかってきた。(障害福祉課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各地にある総合型地域スポーツクラブと連携を強化し、継続して障害者スポーツ教室等を開催することで、障害者スポーツに関する関心、理解を深め、障害者スポーツの普及促進を図る。(障害福祉課)
<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツ体験の参加者の多くは楽しんで体を動かしてくれたが、定期的な活動に結びついているかが疑問である。(県レクリエーション協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に対して、レクリエーション活動に関する資格取得や、市町村レクリエーション協会の案内等、継続的な活動ができるような周知をしていく。(県レクリエーション協会)
<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール種目となると参加者は女性が殆どで男性との混合の部もありますが1チーム男性が4名程度の参加となっている。(県スポーツ推進委員協議会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツとして働く世代だけを捉えた推進を図る為には、今後、魅力的なものにするためにも競技内容等について検討していく必要がある。(県スポーツ推進委員協議会)

施策の柱Ⅰ

生涯にわたるスポーツ活動の推進 ～高齢者のスポーツ～

■目標

県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、性別や障害の有無を問わず、安全にスポーツを「する」「みる」「支える」活動を推進していきます。

■目指す姿

健康や体力に対する関心が高まりスポーツ習慣が継続され、地域の公園や学校、地域スポーツクラブなど様々な場所で、元気にいきいきとそれぞれのスポーツ活動を楽しんでいます。散歩やウォーキング、軽い運動などを世代を超えた住民が一緒に行うことにより地域のコミュニティが形成され、地域活動に参加するなど絆ができ、健康で豊かな人生を送っています。

基本方向

- 1 健康づくり活動の推進
- 2 スポーツ活動機会の創出と交流の推進

目標指標等

■達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」
C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」
■達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 ストック型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)
目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)

No.	項目	現状値	全国値	目標値 (R4:3年後)	達成度		
					達成率	達成度	
1	成人の週1回のスポーツ実施率	H27 35.0 %	R1 53.6 %	65.0 %	53.8%	C	
2	成人の週3回のスポーツ実施率	H27 13.0 %	R1 27.0 %	30.0 %	43.3%	C	
3	成人の年1回以上のスポーツ実施率	H27 62.2 %	R1 - %	90.0 %	69.1%	C	
4	日常生活における歩数の増加 (65歳以上)	男性	H28 5,645 歩	H28 5,744 歩	7000 歩	80.6%	B
5		女性	H28 4,500 歩	H28 4,856 歩	6000 歩	75.0%	C

■ 施策評価

やや遅れている

評価の理由

目標指標等

・平成27年度に実施した「スポーツに関するアンケート調査」では、スポーツの実施率が目標値を大幅に下回る結果となったほか、平成22年度に実施したアンケート調査をも下回る結果となった。なお、60歳以上の週1回のスポーツ実施率は42.3%、週3回のスポーツ実施率は20.0%と比較的、高い数字となっている。
・平成28年度に健康推進課で行った日常生活における歩数調査では、平成22年度調査から男女とも増加しているが、全国値とはまだ差がある。
◆上記の目標指標の状況等及び以下の各取組の成果から、評価は「やや遅れている」と判断する。

※ 評価の視点: 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

基本方向1 健康づくり活動の推進

【取組】

- ①健康づくりに関する食生活や身体活動等の情報の充実
- ②健康づくり教室等の開催
- ③生きがい健康づくり協力員への支援

事業の成果等
<p>【取組①②③】 「歩こう！あと15分」を目指すため、モバイルフォンを活用し、個人の日々の必要歩行数の見える化や、モバイル内イベントの開催、歩行数によるポイント獲得などのインセンティブにより気軽に楽しい健康づくりの実践を促すツールとして、みやぎウォーキングアプリの構築・運用を開始した。(健康推進課)</p>
<p>【取組②③】 メタボ予防対策事業として、地域特性に応じた事業(企画・評価会議、働く人の連携事業)を、各保健所圏域で実施した。(健康推進課)</p>
<p>【取組②】 いつでも、どこでも、だれでも、生涯を通じてスポーツに親しめる環境を整備するため、気軽に行えるニュースポーツの普及や体育施設間のネットワークの構築、スポーツボランティアの支援等を行った。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組③】 宮城いきいき学園(県内5校、2学年計232名)での学習を通じて、生きがいと健康づくりを推進した。(長寿社会政策課)</p>

基本方向2 スポーツ活動機会の創出と交流の推進

【取組】

- ①スポーツ大会参加の支援
- ②シニアスポーツ大会の支援
- ③地域のスポーツイベントとニュースポーツ教室の開催
- ④各種大会、スポーツ教室の充実
- ⑤野外活動・レクリエーション活動の普及
- ⑥スポーツによる地域活動機会の創出
- ⑦スポーツボランティア活動の普及
- ⑧スポーツの情報ネットワークの整備と充実(再掲: I 子ども-3)
- ⑨スポーツ観戦機会の充実(再掲: I 子ども-3)

事業の成果等
<p>【取組①】 全国健康福祉祭(ねんりんピック)和歌山大会へ、選手及び役員122名を派遣した。(長寿社会政策課)</p>
<p>【取組②③④】 地域スポーツ活動の普及推進事業を実施する16市町の体育・スポーツ協会に対し助成金を補助し、生涯スポーツ活動を推進した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組③】 ・第73回全国レクリエーション大会in宮城2019を実施し、延べ14,000人の参加者が、ニュースポーツの各種大会を実施した。それ以外では、県内各地域の社協や公民館からの依頼により、ニュースポーツ体験やリズム体操などを実施した。(県レクリエーション協会)</p>
<p>【取組③⑦】 気軽に楽しく運動できる機会の提供を目的として施設の無料開放を行った。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組④】 総合型地域スポーツクラブに対して専門的な知識・技能を有した講師を派遣することで、実技体験を通してスポーツの良さを実感してもらう支援を行い、合計 494名の参加があった。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組⑨】 県が参画する各プロスポーツチーム協議会を通じ、試合チケットの優待や招待などを実施した。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組⑨】 サッカー競技開催県として組織委員会とともに輸送計画や会場調整など開催に向けた準備を進めた。また、ボランティアの募集や研修、1年前イベントの実施など大会参画に繋がる取組を実施した。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>

施策を推進する上での課題と対応方針	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・アプリダウンロード数の増加に向けた周知広報等。 ・事業所等と連携したいが、事業所側の担当者及び代表取締役等トップの意識に左右されるところが大きい(健康推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発事業の実施, 及び県関係機関との連携方法についても検討していきたい。 ・行政機関等との連携や, 各種団体を取りまとめる県庁関係各課との連携についても検討していきたい。(健康推進課)
<ul style="list-style-type: none"> ・大人を含めたチケットの着券率が伸び悩むこともあり, 必ずしも協議会が想定した客数に達しない場合もある。 ・ボランティア活動等を含めた大会参画への機会の創出, スポーツ, 大会の素晴らしさをさらに周知する必要がある。(オリンピック・パラリンピック大会推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知方法や内容など, 広く子どもたちがスポーツ観戦に訪れられるような仕組み作りを検討する ・大会準備のほか, イベント開催やボランティアの活動などオール宮城で取組を進めていく。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)
<ul style="list-style-type: none"> ・参加する高齢者に固定化が見られる。 ・来場者数の確保。(県スポーツ協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村で地域の関係団体と連携を図り, 参加者の広がりが生まれるよう働きかける。 ・来場者数が増えるよう創意工夫を図る。 ・無料開放時においては3世代(子供・大人・高齢者)が体験できるコーナーを設けるなど創意工夫を図り, スポーツを日常的に行うきっかけづくりに努める。(県スポーツ協会)
<ul style="list-style-type: none"> ・男性の高齢者の参加率が低い。(県レクリエーション協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性でも気軽に参加できるような内容や声掛けを行う。(県レクリエーション協会)
<ul style="list-style-type: none"> ・特に沿岸地域において, 入学者数が減少している。 ・旅費等選手自身の負担が伴うことから, ねんりんピックへの参加者数は現状維持で留まっている。(長寿社会政策課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者増員のため, 募集方法や教室の運営に関して検討する。 ・明るい長寿社会づくり推進事業の中で経費の見直し等を行い, 少しでも旅費等の補助を増額できるよう, 補助先である宮城県社会福祉協議会と検討を行う。(長寿社会政策課)

施策の柱Ⅱ 競技力向上に向けたスポーツ活動の推進

■ 目標

ジュニア期からの一貫した強化体制を構築していきます。

■ 目指す姿

スポーツ人口が増えることにより、県内の競技力が全体的に向上し、国体や全国大会で入賞する種目やアスリートが増えるとともに、ユースオリンピック、オリンピック・パラリンピックなどでも、アスリートやスタッフが活躍しています。

基本方向

- 1 国際的なスポーツ大会・国体等で活躍できる人材の育成
- 2 競技活動を支える体制の整備

目標指標等	■ 達成度		■ 達成率(%)		現況値	全国値	目標値 (R4:3年後)	達成度	
	A:「目標値を達成している」(達成率100%以上)	B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」	C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」	N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」				達成率	
	フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値) 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)								
1	国体の男女総合(天皇杯)順位の10位台維持	R1	28	位	—	—	10位台	C	67.9%
2	ユースオリンピックにおける本県選手の輩出	H30・R1	輩出		—	—	輩出	A	
3	オリンピック・パラリンピックにおける本県出身のメダリストの輩出	H25・28・30	輩出		—	—	輩出	A	
4	国民体育大会皇后杯成績順位	R1	38	位	—	—	10位台	C	50.0%

施策評価	やや遅れている
評価の理由	
目標指標等	<ul style="list-style-type: none"> ・国体の男女総合(天皇杯)順位については、平成29年度は34位と大きく順位を下げたが、平成30年度は30位、令和元年度は28位とやや持ち直した。しかし、女子総合(皇后杯)順位については、平成30年度は36位、令和元年度は38位と年々順位を下げている。 ・ユースオリンピックにおける本県選手の輩出については、第2回ユースオリンピック冬季競技大会(2016/リレハンメル)のスケルトン競技(男子)に、ジュニアトップアスリートアカデミーの修了生が出場している。 ・オリンピック・パラリンピックにおける本県出身のメダリストについては、第22回冬季オリンピック(2014/ソチ)、第31回夏季オリンピック(2016/リオデジャネイロ)、第15回夏季パラリンピック(2016/リオデジャネイロ)、第23回冬季オリンピック(2018/平昌)でそれぞれ本県出身選手がメダルを獲得している。 ◆上記の目標指標の状況等及び以下の各取組の成果から、評価は「やや遅れている」と判断する。

※ 評価の視点: 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

基本方向1 国際的なスポーツ大会・国体等で活躍できる人材の育成

【取組】

- ①一貫した強化体制の確立
- ②強化指定制度の確立
- ③国際的なスポーツ大会・国体等に向けた選手強化支援
- ④競技の拠点化
- ⑤ジュニアアスリートの発掘・育成の充実

事業の成果等
<p>【取組①】</p> <p>・公益財団法人宮城県スポーツ協会を通じ、競技団体が実施する実践的な強化事業の支援を行った。ジュニア期からシニア期までの一貫した強化体制の構築を目的とした事業の支援を行った。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組①】</p> <p>ジュニア期からシニア期までの一貫した強化体制を構築するための分析担当者を育成する17団体に補助金を交付し、体制整備を推進した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組②】</p> <p>宮城県教育委員会と連携して、県有施設の減免制度を活用し、強化指定選手・チームの強化事業を支援した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組③】</p> <p>・国民体育大会に派遣された選手、監督、本部役員に対し派遣費等の補助を行った。本大会の総合成績は28位と昨年より2つ順位を上げた。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組③】</p> <p>全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣したが、台風19号の影響により、全日程が中止となった。(障害福祉課)</p>
<p>【取組③】</p> <p>合宿や遠征等の実践的な強化事業や高いレベルの指導者を育成する事業を実施する加盟競技団体に対して補助金を交付し、選手強化を支援した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組⑤】</p> <p>小学5・6年生計90人のジュニアアスリートに対し、トップアスリートとして必要な知識の基礎や身体能力を高める運動方法などの各種プログラムを実施した。(県スポーツ協会)</p>

基本方向2 競技活動を支える体制の整備

【取組】

- ①各スポーツ団体の連携
- ②指導者等の育成と支援
- ③女性アスリートを支える体制の確立
- ④競技生活を継続できる体制の整備
- ⑤スポーツ大会参加の支援
- ⑥障害者スポーツの普及・強化
- ⑦プロスポーツや企業スポーツとスポーツ団体との連携
- ⑧スポーツ障害予防の推進(再掲: I 子どもー1)

事業の成果等
<p>【取組②】 日本スポーツ協会公認指導者を新たに4名養成するとともに、資質向上を目的とした研修会を実施し、212名の参加があった。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組②④】 合宿や遠征等の実践的な強化事業や高いレベルの指導者を育成する事業を実施する加盟競技団体に対して補助金を交付し、選手強化を支援した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組④】 ・競技団体等の推薦と条件を満たす選手を「みやぎアスリート2020」に指定し、補助金を交付した。(22名)(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組⑤】 ・国民体育大会に派遣された選手、監督、本部役員に対し派遣費等の補助を行った。本大会の総合成績は28位と昨年より2つ順位を上げた。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組⑤】 東北総合体育大会に派遣された選手、監督、本部役員に対し派遣費等を補助した。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組⑤】 東北総合体育大会998名、国民体育大会680名分の大会参加に係る旅費、宿泊費を補助した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組⑥】 宮城県障害者スポーツ協会に「障害者スポーツ振興推進員」を3名(正職1名・臨職2名)を配置し、障害者スポーツの普及促進に取り組んだ。(障害福祉課)</p>
<p>【取組⑦】 各プロスポーツチーム協議会を通じ、指導者に対する講習会(ベガルタ仙台)やチーム所属のジュニアコーチ等からの指導(楽天イーグルス)など、プロスポーツチームとの連携により指導者の育成やジュニアアスリートの育成を図った。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>

施策を推進する上での課題と対応方針	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・より効果的な強化事業費の使い方について、見直しをかける必要がある。 ・事業を継続・維持するにあたりどのように予算を確保していくか。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック終了後の後継事業をどのようなものにするか。 ・事業を継続・維持するにあたりどのように予算を確保していくか。(スポーツ健康課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県スポーツ協会と連携し、補助金配分方針を見直す。 ・他事業との調整を図る。 ・関係団体と情報交換を密にし、効果的な後継事業を模索する。 ・他事業との調整を図る。(スポーツ健康課)
<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーや野球など競技人口が多いスポーツに関しては連携が図られているものの、競技人口の少ないスポーツに対するスポーツチームとの連携は少ない。(オリンピック・パラリンピック大会推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既に開催されている各種スポーツ教室について引き続き協議会を通じ支援していくとともに、企業スポーツとの連携を図るための方策を検討していく。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)
<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、国際大会等で活躍できる人材の掘り起こしや障害者スポーツの裾野拡大、競技人口の増加が必要である。 ・東京2020パラリンピック開催を契機に障害者スポーツへの関心が高まる中、県内で障害者スポーツに取り組める施設の情報が乏しい。(障害福祉課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各地にある総合型地域スポーツクラブと連携して、身近な体育施設で障害者スポーツに触れ合える環境づくりを実施する。 ・県内の障害者スポーツに取り組める施設の照会のほか、障害者スポーツに関する取組、イベントを紹介するHPを作成する。(障害福祉課)
<ul style="list-style-type: none"> ・公認指導者資格の活用が、国体出場の監督資格のために限られている傾向がある。(県スポーツ協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の指導力向上という点からも魅力ある研修会となるよう、内容の創意工夫を図る。(県スポーツ協会)

施策の柱Ⅲ スポーツ活動を支えるための環境づくりの充実

■目標

県民が主体となった地域のスポーツ環境を整備していきます。
「支える」活動を推進していきます。

■目指す姿

身近な場所に住民が主体的に運営する「総合型地域スポーツクラブ」があり、地域のスポーツ活動をコーディネートするリーダーが育ち、スポーツを通じた地域コミュニティが形成されています。

県民のスポーツに関する情報のネットワークが構築され、県民自らが、積極的にスポーツに関わる様々な場が、創出されています。

みやぎの特色であるプロスポーツの集積によりスポーツ観光県としての知名度が向上し、また、県内の大学を活用したスポーツにおける安全を確保するための、スポーツ情報、医・科学が充実しています。

東日本大震災で被害を受けたスポーツ施設の復旧・復興を図り、身近な場所にスポーツをする場が確保されています。

基本方向

- 1 地域のスポーツ環境の充実
- 2 広域スポーツセンター機能の充実
- 3 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援
- 4 指導者等の育成と連携
- 5 スポーツボランティアの育成と支援
- 6 表彰制度の拡充
- 7 スポーツを支える組織の強化
- 8 スポーツ安全に関する情報分析・研究及び成果の活用
- 9 スポーツ観光の推進とスポーツ大会の誘致
- 10 身近なスポーツ施設の充実
- 11 プロスポーツや企業・大学と地域スポーツの好循環

目標指標等	■達成度		■達成率(%)		現状値	全国値	目標値 (R4:3年後)	達成度 達成率
	A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上)	B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」	C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」	N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」				
1 総合型地域スポーツクラブの設置市町村数					R1 24市町村	—	35市町村	C 68.6%
2 部活動指導員					R1 9 人	—	35 人	C 25.7%
3 スポーツボランティアの活動経験					H27 12.9 %	H29 6.1 %	20 %	C 64.5%
4 競技場でのスポーツ観戦者の割合					H27 32.1 %	H29 24.7 %	50 %	C 64.2%

施策評価	遅れている
評価の理由	
目標指標等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの設置市町村数については24市町で達成率は68.6%となっており、達成度は「C」に区分される。 ・昨年度から項目の設定替えをした部活動指導員数については、昨年度より2名増加したが、定着が図られていない。 ・スポーツボランティアの活動経験については、平成27年度調査において前回の調査より上回ったものの、目標値に達せず「C」に区分される。 ・競技場でのスポーツ観戦者の割合については、平成27年度調査において前回調査を大幅に下回り、達成度「C」に区分される。 <p>◆上記の目標指標の状況等及び以下の各取組の成果から、評価は「遅れている」と判断する。</p>

※ 評価の視点: 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

基本方向1 地域のスポーツ環境の充実

【取組】

- ①「おらほのスポーツ」による地域の拠点化の推進
- ②学校や地域スポーツクラブでの活用
- ③「おらほのスポーツ」指導者の活用
- ④競技の拠点化(再掲:Ⅱ-1)

事業の成果等

【取組①②③④】

県スポーツ推進委員協議会に対して、事業経費を補助した。地域スポーツクラブ普及推進事業では19市区町村体協に対して事業経費を補助した。ブロック研修会開催事業では全8ブロックで研修会が開催され、経費を補助した。なお、全体研修会は台風の影響により開催が中止となった。(スポーツ健康課)

基本方向2 広域スポーツセンター機能の充実

【取組】

- ①関係機関との連携による新設・既設総合型地域スポーツクラブへの支援充実
- ②スポーツの情報ネットワークの整備と充実(再掲:Ⅰ子ども-3)
- ③スポーツ交流大会の開催
- ④地域スポーツを担う人材の育成支援
- ⑤スポーツ障害予防の推進(再掲:Ⅰ子ども-1)
- ⑥広域スポーツセンターの体制整備

事業の成果等

【取組①】

未設置市町村への訪問活動や各地域で活動しているスポーツ団体の情報提供を行った結果、総合型クラブ設置に向けた動きが複数の市町村で見られた。(スポーツ健康課)

基本方向3 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援

【取組】

- ①地域住民への普及・啓発活動の推進
- ②指導・助言活動の充実
- ③総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツクラブがNPO法人格を取得するための支援
- ④人材の育成支援
- ⑤総合型地域スポーツクラブ間の連携と協働への支援
- ⑥人材の好循環に向けた取組
- ⑦地域のスポーツ指導者の連携

事業の成果等

【取組①】

未設置市町村への訪問活動や各地域で活動しているスポーツ団体の情報提供を行った結果、総合型クラブ設置に向けた動きが複数の市町で見られた。(スポーツ健康課)

【取組②】

総合型地域スポーツクラブの設立及び運営に関する支援を、延べ36市町村101クラブに行った結果、新たに名取市において1クラブが設立された。また、未設置市町村を中心としてクラブ設立の働きかけを行った結果、蔵王町と南三陸町においてクラブ設立の気運が高まり、宮城蔵王スポーツクラブが設立総会を開催した。さらに、設立準備委員会を設置した南三陸町に対して設立準備補助金を交付し、令和2年度までに設立する見通しが立った。(県スポーツ協会)

【取組④⑤】

リスクマネジメント、クラブ交流会、総合型クラブに係る最新情報等の研修会の開催(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会)

基本方向4 指導者等の育成と連携

【取組】

- ①公認スポーツ指導者の資質向上
- ②スポーツ推進委員の資質向上への支援
- ③総合型地域スポーツクラブスタッフの養成支援
- ④市町村等運動指導者の資質向上への支援
- ⑤生きがい健康づくり協力員への支援(再掲: I 高齢者-1)
- ⑥スポーツの情報ネットワークの整備と充実(指導者)
- ⑦部活動指導者の育成と充実(再掲: I 子ども-4)
- ⑧スポーツ障害予防の推進(再掲: I 子ども-1)
- ⑨プロスポーツや企業スポーツとスポーツ団体との連携(再掲: II-2)
- ⑩障害者スポーツ指導員の養成講習会の開催

事業の成果等
<p>【取組①】 日本スポーツ協会公認指導者の資質向上を目的とした研修会を実施し、212名の参加があった。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組②】 年1回のスポーツ推進委員に対する研修会(県研究大会・女性研修会・各地区研修会)を開催してスポーツ推進委員の資質向上が図られた。 (スポーツ推進委員協議会)</p>
<p>【取組③】 クラブ運営の中心的役割を果たすアシスタントマネジャーの養成講習会を行い、13名が新規に資格を取得した。 (県スポーツ協会)</p>
<p>【取組④⑦】 みやぎ遊学特選塾において、県内のレクリエーション有資格者47名に対して、新種目の紹介と実技を行った。また、教員免許状更新講習会においては、80名の教員に対してレクリエーションの指導をした。(県レクリエーション協会)</p>
<p>【取組⑤】 宮城いきいき学園(県内5校、2学年計232名)での学習を通じて、生きがいと健康づくりを推進した。(長寿社会政策課)</p>
<p>【取組⑥】 各プロスポーツチーム協議会を通じ、指導者に対する講習会(ベガルタ仙台)やチーム所属のジュニアコーチ等からの指導(楽天イーグルス)など、プロスポーツチームとの連携により指導者の育成やジュニアアスリートの育成を図った。 (オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組⑩】 障害者スポーツの普及・振興を図るため、障害者スポーツ指導員養成研修(初級24人受講終了)を実施したほかスポーツ指導員を対象とした研修会を開催した。(障害福祉課)</p>
<p>【取組⑩】 初級障がい者スポーツ指導者養成講習会を開催し24名が受講した。また、指導者研修会を5回開催し、延べ47名が参加した。その他、中央協会主催で行われたボッチャサポーター養成研修会、ボッチャ審判員養成講習会に5名を派遣した。 (県障害者スポーツ協会)</p>

基本方向5 スポーツボランティアの育成と支援

【取組】

- ①スポーツボランティア活動の普及
- ②スポーツボランティアの育成と活用
- ③スポーツボランティア活動機会の情報提供
- ④障害者スポーツボランティアの育成

事業の成果等
<p>【取組①②③】 いつでも、どこでも、だれでも、生涯を通じてスポーツに親しめる環境を整備するため、スポーツボランティアの支援を行った。 (県スポーツ協会)</p>
<p>【取組④】 障がい者スポーツボランティアの養成を行い、県内各地でのスポーツイベントへ派遣を行った。ボランティア養成講習会を11回実施、延べ388名が受講。各イベントへのボランティア派遣事業は8回実施し、延べ35名を派遣した。(県障害者スポーツ協会)</p>
<p>【取組④】 障害者スポーツ大会等の開催に必要なボランティアを養成するため、障害者スポーツボランティア養成研修(22回457人)及びリーダー養成研修を実施した。(障害福祉課)</p>

基本方向6 表彰制度の拡充

【取組】

- ①現在の表彰制度の充実
- ②新たな表彰制度の確立

事業の成果等
【取組①】 宮城県・高体連・中体連と合同で表彰式を開催し、スポーツに功績のあった個人75名、29団体に表彰を行った。 (県スポーツ協会)
【取組①】 4団体合同での県スポーツ合同表彰式は、その都度、課題や問題点を担当者間で洗い出し、解決しながら進行しているため、大きな変更や問題点は出されていない。(県高体連)
【取組①】 本県中学校スポーツ界の向上に功績があった生徒(個人・団体)と中体連の運営・発展に寄与した指導者に対し、功績賞を授与した。表彰者の出席は90%を超えており、功績があった中学校関係者が参加する表彰式として定着した。(県中体連)

基本方向7 スポーツを支える組織の強化

【取組】

- ①適正な運営の指導
- ②アンチ・ドーピングの推進
- ③組織間の連携と充実

事業の成果等
【取組②】 国民体育大会に参加する監督・選手約200名に対して、アンチ・ドーピング研修会を実施し、アンチ・ドーピングの啓発を行った。(県スポーツ協会)

基本方向8 スポーツ安全に関する情報分析・研究及び成果の活用

【取組】

- ①大学等の研究機関との連携
- ②スポーツドクター等との連携

事業の成果等
【取組②】 国民体育大会宮城県選手団帯同ドクターとして、日本スポーツ協会公認スポーツドクターを会期前1名、主会期2名、冬季大会3名の計6名派遣し、大会現場での対応及び指導助言を得た。(県スポーツ協会)
【取組①】 今年度は大学等の研究機関との連携に関する取り組みは行っていない。(県中体連)

基本方向9 スポーツ観光の推進とスポーツ大会の誘致

【取組】

- ①国際大会や全国規模のスポーツ大会の誘致による地域の活性化
- ②プロスポーツとの連携による地域活性化の推進
- ③スポーツによる国際的な交流の推進
- ④「おらほのスポーツ」の情報発信と観光との連携
- ⑤スポーツ情報ネットワークの整備と充実(再掲: I 子ども-3)

事業の成果等
<p>【取組①】 サッカー競技開催県として組織委員会とともに輸送計画や会場調整など開催に向けた準備を進めた。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組②】 宮城球場における県内地場産品の販売会や東北最大級となるマラソン競技の「東北・みやぎ復興マラソン」での地元食品を使用したエイドステーションの設置など、試合会場を活用した県外来場客に対する観光宣伝を行い、地域の活性化を図った。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組②】 ベガルタ仙台及び仙台89ERSと連携し、ホーム戦やビジター戦において観光PRを実施した。(観光課)</p>
<p>【取組②】 地域の子ども達を対象に地元のプロスポーツ団体が指導に当たるスポーツ教室や講習会を開催した。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組③】 スポーツ少年団日独交流事業を通して、宮城の文化・スポーツを紹介するとともに団員との交流を行った。(県スポーツ協会)</p>

基本方向10 身近なスポーツ施設の充実

【取組】

- ①県立施設の整備と活用
- ②スポーツの情報ネットワークの整備と充実(施設情報)
- ③学校体育施設の開放の推進
- ④身近なスポーツ施設の利活用
- ⑤被災した公共スポーツ施設の早期活用の推進

事業の成果等
<p>【取組①】 県有スポーツ施設の老朽化対策として、施設の状況調査等により作成した改修計画に基づき、施設改修や備品の更新を行った。(スポーツ健康課)</p>
<p>【取組①】 県障害者総合体育センターの指定管理者による運営や障害者用の温水プール運営への補助を通じて、障害者のスポーツ振興・普及を図った。(障害福祉課)</p>
<p>【取組①】 スポーツ施設の指定管理者として、県民だれもが豊かなスポーツライフを送れるよう、安全・安心を最優先にしながら、施設の管理運営を行った。(県スポーツ協会)</p>
<p>【取組④】 蔵王国定公園 南蔵王縦走コース上にある登山道の工事に先駆け、調査測量設計を行った。(観光課)</p>

基本方向11 プロスポーツや企業・大学と地域スポーツの好循環

【取組】

- ①プロスポーツや企業スポーツの地域貢献活動との連携によるスポーツ活動機会とスポーツ観戦機会の充実
(再掲: I 子ども-2)
- ②プロスポーツとの連携による地域活性化の推進(再掲: III-9)
- ③プロスポーツや企業スポーツとスポーツ団体との連携(再掲: II-2)
- ④スポーツを通じた地域活性化に向けての大学の教育資源の活用
- ⑤スポーツボランティアの育成と活用(再掲: III-5)

事業の成果等
<p>【取組①】 在県プロスポーツチーム選手による陸上教室の開催, 全日本実業団対抗女子駅伝大会開催に伴う実業団の選手が直接子どもたちに陸上競技を教える「ふれあい陸上教室」など, 子どもの身体活動機会イベントが実施された。 (オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組①】 県が参画する各プロスポーツチーム協議会を通じ, 試合チケットの優待や招待などを実施した。 (オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組②】 宮城球場における県内地場産品の販売会や東北最大級となるマラソン競技の「東北・みやぎ復興マラソン」での地元食品を使用したエイドステーションの設置など, 試合会場を活用した県外来場客に対する観光宣伝を行い, 地域の活性化を図った。 (オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組③】 各プロスポーツチーム協議会を通じ, 指導者に対する講習会(ベガルタ仙台)やチーム所属のジュニアコーチ等からの指導(楽天イーグルス)など, プロスポーツチームとの連携により指導者の育成やジュニアアスリートの育成を図った。 (オリンピック・パラリンピック大会推進課)</p>
<p>【取組③】 プロスポーツと連携し, スポーツ体験や効果的な練習方法の習得, 技術習得により, 子どものスポーツ機会を創出した。 (県スポーツ協会)</p>

施策を推進する上での課題と対応方針	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援等を進めているものの、住民の認知度は依然として低い傾向にある。 市町村の理解と連携体制の違いによって、クラブ運営の活性化に差が生じている。 県有スポーツ施設の多くが、平成13年に開催された「新世紀みやぎ国体」に向けて整備されたもので、老朽化が進行していることから、不具合箇所のリストアップに加え、施設の長寿命化という観点から改修計画を見直す必要がある。(スポーツ健康課) 	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの設立・育成については、「みやぎ広域スポーツセンター」において、未設置市町村への支援やクラブへの助言・相談活動など、きめ細かな取組を継続していく。 各施設毎に個別に整備計画を作成し、競技環境の維持向上を図ると共に、施設全体の長寿命化に向けて計画的に電気設備、機械設備等の更新を進める。(スポーツ健康課)
<ul style="list-style-type: none"> サッカーや野球など競技人口が多いスポーツに関しては連携が図られているものの、競技人口の少ないスポーツに対するスポーツチームとの連携は少ない。 東京2020大会の競技観戦のみならず、観光・グルメなど本県を満喫してもらえるような仕掛けが必要もある。 在県プロスポーツチームのキャンプ先での観光宣伝事業は行われておらず、県外からの交流人口拡大に関しては取組みを実施する必要がある。 シーズンオフや大会開催日など各種スポーツ教室が開催される期間が限定される。 大人を含めたチケットの着券率が伸び悩むこともあり、必ずしも協議会が想定した客数に達しない場合もある。 在県プロスポーツチームのキャンプ先での観光宣伝事業は行われておらず、県外からの交流人口拡大に関しては取組みを実施する必要がある。 サッカーや野球など競技人口が多いスポーツに関しては連携が図られているものの、競技人口の少ないスポーツに対するスポーツチームとの連携は少ない。(オリンピック・パラリンピック大会推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> 既に開催されている各種スポーツ教室について引き続き協議会を通じ支援していくとともに、企業スポーツとの連携を図るための方策を検討していく。 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、官民一体となって大会準備を進めるほか、イベント開催などオール宮城で取組を進めていく。 各プロスポーツ試合時の地場産品販売会や大規模スポーツイベントでの観光宣伝など、県外からの交流人口拡大に向けた取組みを引き続き検討していく。 子どもにより多くの機会が与えられるよう、各プロチームと検討し行事の質・量の向上を図る。 周知方法や内容など、広く子どもたちがスポーツ観戦に訪れられるような仕組み作りを検討する。 各プロスポーツ試合時の地場産品販売会や大規模スポーツイベントでの観光宣伝など、県外からの交流人口拡大に向けた取組みを引き続き検討していく。 既に開催されている各種スポーツ教室について引き続き協議会を通じ支援していくとともに、企業スポーツとの連携を図るための方策を検討していく。(オリンピック・パラリンピック大会推進課)
<ul style="list-style-type: none"> 障害者スポーツ指導員の数は横ばいであり、今後、障害者スポーツ普及を強化するにあたっては、より一層の指導員養成が必要である。 障害者スポーツボランティアの確保が難しい状況にあり、これまでの方法に加えて、今後は新たなボランティア人材確保の方法を検討する必要がある。 県立施設の老朽化が懸念されており、今後の施設の在り方を検討する必要がある。(障害福祉課) 	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地にある総合型地域スポーツクラブと連携して、クラブ員による障害者スポーツ指導員の資格取得のほか、教育庁の協力により、県内全校あて、教員の指導員養成を促す。 他県での取組みを参考にするなど障害者スポーツボランティアの確保に努める。 他県の状況などを踏まえて、県立施設のあり方を今後検討する。(障害福祉課)
<ul style="list-style-type: none"> スポーツ観戦目的の観客を観光誘客へどう繋げるか。 登山道中の木道が湿地帯にあり、耐用年数が短いため、長寿命化が課題である。(観光課) 	<ul style="list-style-type: none"> 動画コンテンツやパンフレット、ポスター等を活用し、多面的な訴求を行うなど、より興味を喚起するようPR方法を工夫する。 基礎くいをプラスチック製にすることで、耐水性を高める工夫をする。(観光課)
<ul style="list-style-type: none"> 研修会や講習会への参加者数がなかなか伸びない。 ボランティア登録者数の減少、ボランティアの高齢化。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格保有者の活用を推進し、研鑽の機会に対するニーズを高める工夫をする。 登録者数が増えるよう各プロスポーツと協力しながら、また東京2020オリンピックボランティアの次の受け皿として魅力ある活動をPRするなど創意工夫を図る。 参加対象を広げ、一般の研修機会としての活用を検討する。 競技団体とスポーツドクター協議会の連携を図り、障害予防をねらいとした取組みを模索する。 参加者数が増えるよう創意工夫を図る。 県と連携し、長期的な計画を立て長寿命化を図る。 参加者数が増えるよう創意工夫を図ると共に事業の見直しを行う。 行政だけでなく、民間の力を活用する等、市町村の実情に応じた設立に向けた新たな支援方策を模索する。(県スポーツ協会)
<ul style="list-style-type: none"> 大会開催期間中の連携に留まり、日常における連携に広がりが少ない。 参加者数が少ない事業がある。 施設の老朽化。 参加者数が少ない事業がある。 総合型クラブ設置済み市町村においても、未設置市町村においてもクラブ設立の動きがみられたが、まったく動きが見られず停滞したままの市町村も複数ある。(県スポーツ協会) 	<ul style="list-style-type: none"> 資格保有者の活用を推進し、研鑽の機会に対するニーズを高める工夫をする。 登録者数が増えるよう各プロスポーツと協力しながら、また東京2020オリンピックボランティアの次の受け皿として魅力ある活動をPRするなど創意工夫を図る。 参加対象を広げ、一般の研修機会としての活用を検討する。 競技団体とスポーツドクター協議会の連携を図り、障害予防をねらいとした取組みを模索する。 参加者数が増えるよう創意工夫を図る。 県と連携し、長期的な計画を立て長寿命化を図る。 参加者数が増えるよう創意工夫を図ると共に事業の見直しを行う。 行政だけでなく、民間の力を活用する等、市町村の実情に応じた設立に向けた新たな支援方策を模索する。(県スポーツ協会)
<ul style="list-style-type: none"> 特に沿岸地域において、入学者数が減少している。(長寿社会政策課) 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者増員のため、募集方法や教室の運営に関して検討する。(長寿社会政策課)

施策を推進する上での課題と対応方針	
課題	対応方針
<p>・年によるが、被表彰者の表彰式への参加有無の集約に難儀が生じる場合がある。(県高体連)</p>	<p>・現在、マニュアル化され4団体で行っている方法が、最適である。この方法を円熟化していき、取り組んでいくことが大切である。(県高体連)</p>
<p>・現在の規程上、表彰される生徒(選手)母が少ない。また、表彰対象となる指導者も少ない。 ・現状では、大学等の研究機関と連携するための組織や枠組みが存在しない。(県中体連)</p>	<p>・表彰規程を見直し、対象者を拡充すればその分表彰式の時間が増加するため、各専門部独自(専門部会長名)で表彰することができないか検討する。 ・県中体連の研究部を担当とし、大学等の研究機関と連携する事業を検討する。(中体連)</p>
<p>参加者が少数である。 (県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会)</p>	<p>登録・認証制度の導入により令和2年度は従来の活動を行わない。(県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会)</p>
<p>・教員免許状更新講習会においては、参加者が定員以上に集まるため、会場の確保が難しくなっている。 (県レクリエーション協会)</p>	<p>・教員免許状更新講習会においては、文部科学省への計画提出が1年前であるため、会場施設の1年前予約申請について引き続き要望する。またコロナ対策としてオンライン通信での開催も検討する。(県レクリエーション協会)</p>
<p>・障がい者スポーツ指導員養成講習会の受講者は、減少している。また、受講後指導者資格を取得した以降の活動に対する参加数が依然として少ない状況にある。 ・登録ボランティアには高齢の方が多く存在し、若年層の登録者が少ない状況である。(県障害者スポーツ協会)</p>	<p>・魅力ある活動にしていくための創意工夫を図る。また、指導者同士の連携を図る。 ・より多くの方々に参加していただき、地域で障害者がスポーツ活動を行うことに対する理解を深め、気軽にスポーツ活動に親しめる状況を作る。(県障害者スポーツ協会)</p>
<p>・年1回のスポーツ推進委員に対する研修会(県研究大会・女性研修会・各地区研修会)を開催しているが開催日程の関係もあるとは思いますが、全体的に参加者が少ないのが現状である。 (県スポーツ推進委員協議会)</p>	<p>スポーツ基本法でもスポーツ推進委員は「連絡調整等の職務」が加わり、文字どおり地域スポーツ振興の推進役であるスポーツ推進委員のコーディネーターとしての役割が一層期待されていることから行政と連携を図っていく。(県スポーツ推進委員協議会)</p>